

III 大会準備期間における取組

2015年6月、東京2020オリンピック・セーリング競技が江の島で開催されることが決定した後、開催会場自治体としての藤沢市が実施してきた取組に関する記録です。

1 東京2020大会に向けて

本市では、市民の皆様の熱意とご支援のもと、2015年6月に開かれたIOC理事会において、東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技の会場を江の島（湘南港）とする案が承認され、江の島でオリンピックが開催されることが正式に決まりました。

セーリング競技は、第1回大会から競技種目となっていますが32回を数えるオリンピック史上、これまで、同じ会場で競技が開催されたことはありませんでした。

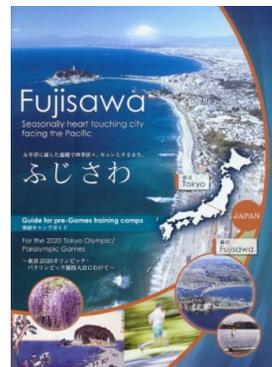
今回、1964年大会に続き、再び江の島を舞台としてセーリング競技が開催されたことは、本市としても、大変名誉なことであり光栄なことでありました。

本市では、江の島開催が決定した後、市内の産業、医療、大学、スポーツ及び市民活動などに関わる18団体に、市を加えた19団体により、支援委員会を組織し、市民参加型の大会実現と、未来に向けたレガシー創出など、大会に向けて定めた支援方針に基づき、様々な取組を進めてきました。

ここでは、主に江の島開催が決定した後からの本市における取組について、いくつか紹介します。

(1) 2016年リオ大会の視察

セーリング競技の江の島開催決定を受けて、2016年8月16日（火）～18日（木）の日程で、鈴木市長がリオ大会を視察しました。視察では、セーリング競技会場で日本代表選手団を激励したほか、各国オリンピック・パラリンピック委員会（NOC・NPC）や各国競技団体（NF）へ事前キャンプ誘致のリーフレット等で本市のPRを行いました。



(2) 大会に係る各種計画の策定

東京2020オリンピック・セーリング競技が江の島で開催されることが決定したのち、本市では、関連施策・事業を推進するため、次のとおり各種計画等を策定しました。

大会の1年延期をふまえ、すべての計画等ともに対象期間を1年間延長しました。

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、すべての計画等における個別の施策・事業については、感染症対策、安全安心を第一として対応しました。

No.	計画等の名称	計画等の概要	策定期間	対象期間
1	東京2020大会に向けた 市内アクションプラン	市民参加の推進とレガシー創出に 向けた全庁対象としたプラン	2017年3月	～ 2022年3月
2	藤沢市大会関連 ボランティア等推進計画	市民参加型の大会の実現を目的に 戦略・ビジョンを定める	2017年6月	
3	藤沢市大会関連 ボランティア等実施計画	推進計画で定めた事項を基本に各 取組の具体的な内容を定める	2018年3月	
4	藤沢市オリンピック・ パラリンピック 教育プログラム	市民や子どもたちの心身の健やか な成長に寄与することを目的とし て策定	2017年12月	
5	藤沢市オリンピック・ パラリンピック 文化プログラム	本市の文化芸術と郷土歴史を国内 外に発信していくことを目的とし て策定	2018年3月	

(3) 開催準備にかかる本市の執行体制

本市では、2013年9月、I O C総会において2020年夏季大会の開催都市に東京が選ばれたことを受け、2014年1月、市内に市長を会長として、副市長、教育長、及び全部局長で構成する「2020年東京オリンピック・パラリンピック藤沢市市内推進会議」を設置し、東京2020大会に向け、全庁を挙げて取り組む体制を整えました。

その後、2015年6月のI O C理事会において、東京2020オリンピック・セーリング競技が江の島で開催されることが決定したことを受け、開催準備に向けた組織編成及び人員配置を行い、執行体制を段階的に強化してきました。

2015年7月に企画政策課内に準備担当を設置、その後、2016年4月に企画政策部に「東京オリンピック・パラリンピック開催準備室」を設置、また、2017年4月からは、組織改正により生涯学習部の所管となりました。また、2017年4月からは、兼務職員を位置づけ、市内全体での事業推進に向けて、一層の体制強化を図りました。

加えて、2015年10月からは神奈川県に、更に2018年4月からは、組織委員会に職員をそれぞれ派遣し、連携を図りながら、着実に準備を進めてきました。

【職員の配置体制の経過】

年月日	内 容
2015.7.1	企画政策課内に「東京オリンピック・パラリンピック準備担当」を設置
2015.10.1	神奈川県政策局総務室オリンピック・パラリンピックグループへ職員1人を派遣
2016.4.1	企画政策部内に「東京オリンピック・パラリンピック開催準備室」を設置 神奈川県スポーツ局オリンピック・パラリンピック課へ職員1人を派遣
2017.4.1	組織改正により、開催準備室の所管が企画政策部から生涯学習部に変更
2018.4.1	組織委員会大会運営局へ職員1人を派遣
2019.4.1	組織委員会へ職員2人を派遣(派遣部署：会場整備局1人、警備局1人)

【年度別の人員体制】

区 分	年 度						
	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31/R1)	2020 (R2)	2021 (R3)
職 員	2人 (7月～)	6人	8人	11人	11人	11人	11人
(兼務職員)	－	－	(6人)	(6人)	(15人)	(15人)	(15人)
神奈川県 への派遣職員	1人 (10月～)	2人	1人	1人	1人	1人	1人
組織委員会 への派遣職員	－	－	－	1人	3人	2人	2人
非常勤職員 臨時職員ほか	－	2人	3人	9人	10人	11人	11人
合 計 (兼務職員除く)	3人	10人	12人	22人	25人	25人	25人

(4) 予算執行の状況

開催準備室が設置された2016年度から大会が開催された2021年度までの6年間に、開催準備に当たり直接的に要した経費に関する執行状況です。

下表については、以下の考え方のもと積算しています。

- ・2016年度から2020年度までの5年間は、決算額を記載しています。
- ・2021年度については、2020年度からの繰越予算分を含め、現時点での執行見込額を計上しています。

【年度別の予算執行の状況（オリンピック開催準備関係費）】

年度	執行見込額 (2016～2020年度は決算額)			予算執行の主な内容
	合計	財源内訳		
		特定	一般	
2016(H28) 年度	22,388	7,429	14,959	<ul style="list-style-type: none"> ■ リオ大会を市長と職員3人が視察 ■ リオ大会セーリング競技パブリックビューイング実施 ■ ボランティアシンポジウム開催 等
2017(H29) 年度	32,239	11,867	20,372	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大会1000日前記念イベント ■ オリンピアン・パラリンピアン教室 ■ ボランティアフォーラム 等
2018(H30) 年度	68,474	14,484	53,990	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大会2年前記念イベント ■ 国際レース観戦イベント ■ ワールドカップシリーズへの支援 ■ 大会500日前記念イベント 等
2019 (H31/R1) 年度	106,012	13,713	92,299	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大会1年前記念イベント ■ セーリング選手関係者と児童生徒らとの交流 ■ ワールドカップシリーズへの支援 ■ シティキャストフジサワの募集及び研修 等
2020(R2) 年度	131,364	12,832	118,532	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大会100日前記念オンラインイベント ■ 庁舎等の装飾 ■ ホストタウン各国とのオンライン交流 ■ シティキャスト リスタートイベント 等
2021(R3) 年度 ※執行見込額	263,384	21,678	241,706	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事前キャンプにおける3か国の受入れ・交流 ■ シティキャストフジサワの研修・運営 ■ 「チームFUJISAWA2020」サイトの構築・運営 ■ アスリート報告会 ■ 記録映像の編集・制作 等
合計	623,861	82,003	541,858	

2 支援方針に基づく取組

本市は、2016年7月に、支援委員会が定めた「市民参加型オリンピック・パラリンピックの実現」と「未来に向けたレガシー創出」に向けた取組を通じて、「地域と市民が元気になること」の具現化を目指し、本市の施策・事業を効果的かつ着実に推進するため、アクションプランを策定し、市を挙げて取組を進めてきました。

本市では、東京2020大会に、すべての市民の皆様に関わっていただくことを目指し、また、支援方針に掲げる10本の柱について、市の様々な施策・事業を推進してきました。

【支援方針に掲げる10本の柱】

1 気運を高める取組とスポーツ推進に関する取組

2 ボランティア等の市民参加に関する取組

3 健康増進に関する取組

4 文化・教育に関する取組

5 産業・観光振興に関する取組

6 環境に関する取組

7 共生社会の推進に関する取組

8 救急・医療体制に関する取組

9 安全・安心に関する取組

10 周辺環境整備に関する取組

1 気運を高める取組とスポーツ推進に関する取組

大会に向けて気運を高める取組を進めるとともに、大会を契機として、子ども、高齢者、障がい者など、誰もが「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」気軽にスポーツを楽しめるよう、各スポーツ施策に基づく取組を推進しました。

(1) 東京2020大会の気運醸成

大会開催の1000日前や2年前、500日前、1年前、100日前などの節目となるタイミングを捉え、神奈川県や大会公式スポンサー企業等と連携し、盛り上げの記念イベントを実施したほか、大規模イベントにおいて、オリンピック・パラリンピアン等を招いてのスポーツ教室・講演会などを実施してきました。

また、競技開催会場自治体として、商店街へのフラッグの掲出や、東京2020参画プログラムを積極的に活用しつつ、大会気運の醸成を図るとともに、市民団体との協働により気運醸成の取組やボランティア活動などの市民活動の様子を記録した動画を制作し公開するなど、大会への盛り上げを図りました。



1964年東京大会資料の
記念展示



大会気運醸成イベント



トランポリン教室
棟朝銀河選手



水泳教室
加藤ゆか・佐藤久佳・月岡麻美選手



2016年リオ大会 藤沢市 市民報告会



大会1000日前イベント



フラッグツアーセレモニー 神奈川県庁



藤沢駅自由通路



辻堂駅自由通路



市役所新館
(現分庁舎)



江の島ヨットハーバー



湘南台駅地下イベント広場

オリンピック・パラリンピックフラッグ展示



サンパレットのサイネージ



遊行の盆



大会2年前公開記者発表



大会2年前イベント



宮川麻都・隅田凜選手 市長表敬
女子サッカー



海堀あゆみ選手
サッカー教室



湘南台ファンタジアでの
ホストタウン紹介パネル展示



大会500日前イベント



大会1年前イベント 2019年



日本代表監督 水鳥寿思氏 体操教室



江の島シーキャンドル 大会1年前ライトアップ
2020年



カウントダウンボード設置



大会100日前オンラインイベント



藤沢駅南口・北口
に横断幕を掲出

市役所庁舎での
工事仮囲いを
活用したPR





総合市民図書館 展示



辻堂市民図書館 展示



南市民図書館 展示



湘南大庭市民図書館 展示

市が作成した
初期の啓発ポスター



NPO法人湘南遊映坐との協働により市民活動の様子を記録した動画を公開

(2) セーリング競技の普及啓発

本市江の島が開催会場となるセーリング競技については、2016年のリオ大会で、セーリング競技の様態をパブリックビューイングで放映したことを皮切りに、競技の魅力・ルールを紹介する動画の放映や、藤沢市民まつり、産業フェスタ等、市民の皆様が多く集まる機会を捉え、主催者や競技団体と連携した競技艇の展示や陸上体験会、子どもたちを対象としたセーリング特別授業などを実施しました。また、誰もが参加できるふじさわセーリングフェスタを2017年度以降、毎年開催するなど、競技の普及啓発を図ってきました。

——— 【2016年のリオ大会セーリング競技普及啓発・藤沢市ゆかりの選手の応援】 ———



パブリックビューイングでセーリング競技観戦と解説を実施（藤沢商工会館ミナパーク）



2016年リオ大会のセーリング競技等の様態を市役所新館（現分庁舎）で放映



女子470級出場

吉田 愛 選手

吉岡 美帆 選手

（日本大学生物資源科学部卒）

（藤沢市在住）



レーザーラジアル級出場

土居 愛実 選手

（慶應義塾大学環境情報学部卒）



NHK横浜放送局との共催事業「体感！セーリングの魅力in江の島」
オリンピックの高橋 賢次 選手にご出演いただき、後日、NHK B S1で放映されました。



賀詞交換会で艇の展示



藤沢市民まつり



セーリング写真展



ミートアップ藤沢

市と市民活動推進機構
の協働事業

2004年アテネ大会
セーリング男子470級
銅メダリストの関一人
氏を招き実施



藤漣会（公共団体、経済団体などによる連携等を目的とした団体）
日本セーリング連盟からオリンピックでもある齋藤愛子氏を招き、
鈴木市長とのトークセッションを開催



セーリング魅力発見クルージング



プールでセーリング体験



牧野幸雄選手（2016年リオ大会出場）のセーリング授業（片瀬中学校・秋葉台小学校）



産業フェスタでのセーリング陸上体験会



セーリング競技ガイドパンフレット



湘南台ファンタジアでのホストタウン紹介パネル展示



セーリングすごろく
市内の全公私立小学校と特別支援学校（小学部）に配布



セーリングVR体験

【セーリングワールドカップシリーズ江の島大会2018】



大型ビジョンとステージを設置し、実況解説付きのパブリックビューイングやイベントを開催



【セーリングワールドカップシリーズ江の島大会2019】



「太鼓集団ふじ」のおもてなし演奏



藤沢マイスターのおもてなしブース



セーリングのトラッキングシステム



「帆船 みらいへ」の体験乗船を実施



湘南台駅地下広場でセーリング競技の
パブリックビューイングを実施

(3) 海外セーリングチームとの国際交流

2018年・2019年に開催されたセーリングワールドカップシリーズ江の島大会（2020年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止）への出場のために本市を訪れた海外のセーリングチームとの交流の取組を積極的に実施しました。

海外の選手関係者と市民の皆様との交流を通じて、東京2020大会に向けた気運醸成とセーリング競技の普及啓発が図られたとともに、外国の言語や文化に関心と理解が深まり、国際理解や多文化共生の推進につながりました。

① 2018年における交流の取組

2018年には、2か国（オーストリア・アメリカ）のセーリングチームと交流を行いました。オーストリアチームとの交流では、チームが滞在していた市内のホテルで、湘南白百合学園の中学生・高校生らが選手関係者に向けて歓迎の演奏を行ったほか、書道体験・浴衣着付け体験を通じた交流を行いました。

また、アメリカチームとの交流では、江の島ヨットハーバーでの艇の紹介などを通じ、選手と学園小学校の児童らが交流を行いました。



オーストリアチームとの
書道体験を通じた交流



アメリカチームとの
江の島ヨットハーバーにおける交流

② 2019年における交流の取組

2019年には、6つの国と地域（スペイン・香港・オーストラリア・ノルウェー・アメリカ・オーストリア）のセーリングチームと交流を行いました。スペインチームとの交流では、江の島ヨットハーバーで湘南白百合学園の小学校児童らが七夕の短冊に願いを込め、笹に飾り付けを行う交流を、香港チームとの交流では、湘南学園の中学生・高校生らが、学園のカフェテリアで香港にちなんだ献立を作り、昼食を囲んで食文化を理解する交流を行いました。

また、オーストラリアチームとの交流では、選手が市内高校生セーラー等に海上でのセーリング指導を行うなど、競技を通じた交流を行いました。



スペインチームとの
七夕文化交流



香港チームとの
食文化交流



オーストラリアチームとの
海上での交流

ノルウェーチームと藤沢市立長後小学校の交流及びアメリカチームと同市立天神小学校との交流では、児童らが作成したメッセージ・イラストをシート化し、これらを機材運搬用のコンテナに貼付して応援する取組を実施しました。アメリカチームとの交流の際には、JAさがみにご協力をいただき、市内の生産者からご提供いただいた枝豆やトマト、梨やぶどうなどの農産物をふるまい、おもてなしを行いました。

また、オーストリアチームと藤沢市立村岡中学校との交流では、生徒による吹奏楽での歓迎演奏や浴衣を着て踊り披露を行ったほか、オーストリアの民族衣装を着用した選手が、生徒とともに輪になって踊りを踊るなど、文化交流を図りました。



ノルウェーチームへの
メッセージシート贈呈



アメリカチームへの
メッセージシート贈呈



オーストリアチームへの
吹奏楽のおもてなし



セーリング艇の
陸上乗船体験



藤沢産農産物のふるまい



選手と生徒が踊りで交流

③ 日本文化によるおもてなしの取組

2018年は、セーリングワールドカップシリーズ江の島大会の開催にあわせ、江の島北緑地広場で、江の島を始めとした地元の皆様による「ウェルカムフェスティバル」が開催され、選手関係者に対し、江の島ヨット音頭や和太鼓などを披露し、おもてなしを行いました。また、藤沢市文化団体連合会及び藤沢市技能職団体連絡協議会、藤沢商工会議所女性会のご協力をいただき、日本文化の体験イベントを通じて様々なおもてなしを行いました。



藤沢市技能職団体連絡協議会による文化体験ブース
藤沢マイスターによるおもてなしブース

藤澤浮世絵館による
浮世絵すり体験



藤沢市文化団体連合会による和楽器演奏・書道体験・華道体験

2019年の同大会でも、地元の皆様による「ウェルカムフェスティバル」が江の島ヨットハーバーで開催され、選手関係者に、江の島ヨット音頭や和太鼓などを披露し、おもてなしを行いました。また、藤沢市文化団体連合会及び藤沢市技能職団体連絡協議会、藤沢商工会議所女性会らのご協力のもと、着物の着付け・華道・書道体験や、和菓子のふるまい、野点^{のだて}などのブースを出展し、選手関係者を日本文化でおもてなししました。



藤沢商工会議所女性会による野点^{のだて}



藤沢マイスターによる和菓子のふるまい



藤沢市技能職団体連絡協議会
による着物の着付け



藤沢市文化団体連合会による華道体験・書道体験

(4) パラスポーツの普及啓発

本市では、東京2020パラリンピック競技大会の開催を、パラスポーツの普及を進めるまたとない好機と捉え、子ども、高齢者、障がい者など、誰もが「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」スポーツに親しみ、健康で豊かなスポーツライフを確立できるよう、パラリンピアン教室や、パラスポーツフェスタ、ボッチャ競技大会、各公民館におけるパラスポーツ体験講座など、大会開催を契機として、パラスポーツの普及啓発は、今大会のレガシーとして継続して取り組んでいきます。



パラアスリートのちから

車いすバスケットボール・西村 元樹 選手



パラ卓球・岩淵 幸洋 選手（東京2020大会出場）



ふじさわパラスポーツフェスタ



ふじさわボッチャ競技大会



ボッチャ競技体験コート
市役所本庁舎5階ロビー



ふじさわセーリングフェスタ
誰もが安心してセーリングを楽しめるハンザクラスを使用



ふじさわパラスポーツ体験教室
ゴールボール・安達 阿記子 選手 (2012年ロンドンパラリンピック 金メダリスト)



FUJISAWA ラグビー Day!
車いすラグビー・若山 英史 選手 (2016年リオパラリンピック 銅メダリスト)



障がい者スポーツ関連団体との連携事業

認定NPO法人スペシャルオリンピックス 日本・神奈川の主催により、知的障がいのある人が様々なスポーツ競技に挑戦する姿を捉えた写真展「スポーツで広がる可能性」を市役所本庁舎で開催。

2 ボランティア等の市民参加に関する取組

大会を契機として、市民参加型の大会を具現化するため、多くの市民の皆様にも、様々な形で大会に関わっていただく取組を積極展開し、さらには、「チームFUJISAWA2020」の立ち上げに向けて事業を進めていくなかで、大会後における本市のボランティア活動の更なる推進と充実を図るための礎を築きました。

(1) 2020応援団 藤沢ビッグウェーブ

藤沢ビッグウェーブは、オリンピック・パラリンピック開催という、またとない機会を、市民を始め多くの皆様にも、様々な形で大会に関わり、楽しんでいただくとともに、大会後においても、その一体感を後世につなげ、大会を通じて得た一体感や、オリンピック・パラリンピックならではの経験を、本市のレガシーとすることなどを目的に、特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構との協働事業として、2018年4月に発足しました。

「2020応援団 藤沢ビッグウェーブ」の名称は、10代から20代の団員約30人が集まり、藤沢のまちに応援の大きな波を起こしたいとの思いを込めて、みんなで決めました。

藤沢ビッグウェーブの取組としては、設立記念イベントを皮切りに、団員の皆様への大会関連情報の発信を始め、本大会に向けた盛り上げイベントの実施、更には、団員の皆様による自発的な活動を促し企画づくりを目指すワークショップ「アイデアソン」の実施など、市民参加型の大会を具現化するための基軸となる取組として、発足から現在に至るまで、多岐に渡る事業を展開してきました。

藤沢ビッグウェーブは、東京2020大会の終了に伴い、その役割を終え、2022年3月末日をもって解散となります。これに伴い、団員の皆様には「チームFUJISAWA2020」への登録などを積極的に働きかけるとともに、引き続き、多くの方々の熱意やアイデア、ノウハウを、藤沢のまちの元気に確実につなげていけるよう、市民の皆様とともに取組を進めてまいります。

① 設立イベント

藤沢ビッグウェーブの設立を記念して、オリンピック・パラリンピアン等を招いての結成式や、江の島さざ波会・夕波会による「江の島ヨット音頭」の踊り披露などのステージパフォーマンス、ボッチャミニ体験・セーリングのロープワーク体験などの盛り上げイベントを実施し、多くの市民の皆様にご参加いただきました。

日 時 2018年3月31日(土) 13時～16時

会 場 藤沢市役所本庁舎 5階会議室、1階ラウンジ、サンセット広場



② アイデアソン

藤沢ビッグウェーブの団員が自ら企画を出し合い、仲間を見つけ、活動を始めするため、アイデア出し・グループづくりを行うワークショップ「アイデアソン」を開催しました。約100人の団員が集まり、自分のやりたいことや、サポートできることなど、大会に向けた活動のアイデアが生まれました。

日 時 2019年3月23日（土） 14時～18時

会 場 日本大学湘南キャンパス食堂棟3階

参加者数 101人



③ 団員による自主企画活動

アイデアソンの開催などを契機として、団員による活動が本格化し、大会を盛り上げる多くの自主企画の活動が実現しました。

【主な自主企画活動】

(a) 遊行の盆でおどろう

おそろいの法被を着て、2019年の市民まつりや遊行の盆で、ヨット音頭などを披露しました。企画会議、関係各所への申請、補助金の申請を実施し、練習会を重ね、踊りの披露によって本大会に向けた気運を高めることができました。



(b) 創作紙芝居「人間愛の金メダル」

団員有志である大学生などが、1964年の東京オリンピック・ヨット競技で「人類愛の金メダル」と新聞報道された実話を基に、オリジナルの紙芝居を制作しました。2019年には、市内ショッピングモールでの上演、2020年には、オンラインでの動画公開を行いました。



(c) 応援団ガイドブック

「東京2020大会をきっかけに藤沢にいらっしゃった方々が、藤沢にもう一度来たくなる。」をコンセプトに、団員有志により、藤沢の魅力に掲載したガイドブックの企画・取材・執筆・編集が行われ、2021年3月、オンラインで公開されました。



(d) 江の島子どもフェスティバル

セーリングをテーマにしたオリジナル楽曲を制作し、2019年以降、藤沢市民まつりや市内ショッピングモールなど数多くのステージで披露しました。また、若者の参加・次世代への継承にも取り組み、子ども向けのダンス・ボーカルワークショップを開催しました。



(e) 「浜辺の歌」サンバ2020人で踊ろう！

辻堂駅の発車メロディにもなっている、湘南の海岸をイメージした楽曲「浜辺の歌」をサンバのリズムでアレンジし、2019年のアイデアソン以降、2020人で踊るプロモーションビデオの制作を通じて、湘南の魅力を伝える活動を行いました。



(f) サンドアート&ビーチクリーン

2019年6月、江の島周辺のビーチクリーンを行うと同時に、イルカのサンドアート制作を楽しみながら団員同士が交流するイベントを実施しました。



(g) みんなの歌をひとつに

<NHK>2020応援ソング「パプリカ」、
「SMILE～晴れ渡る空のように～」、
「世界に一つだけの花」の3曲の歌唱
動画を団員から募集し、一つの映像に
まとめた「合唱動画」を制作しました。
動画は、2021年3月、東京2020大会に
向けたエールとして、オンラインで公
開しました。



④ 記念イベント

(a) 団員1万人突破記念 市長公開記者発表

団員の登録者数が1万人を突破したことを記念して、団員限定の市長公開記者発表を実施しました。2016年リオ大会まで3大会連続でセーリング競技に出場した牧野幸雄氏と、女優の釈由美子氏をゲストに迎え、トークセッションなどを行い、東京2020大会に向けた気運を高めました。

日 時 2018年11月30日 (金)
15時～16時
会 場 藤沢市役所本庁舎
3階会議室
参加者数 150人



(b) ～ビッグウェーブ再集結！～1年前オンラインまつり

大会1年延期決定後の開催1年前を記念した、オンラインイベントを開催しました。ふじさわ観光親善大使のつるの剛士氏をゲストに迎え、トークセッションを中心に、「延期期間を使ってやってみたい活動」などのテーマをもとに、ライブ配信を視聴している団員からコメントの募集を行うなど、今後の活動を前向きに考えるきっかけづくりを行いました。

日 時 2020年7月23日 (木)
20時～21時
会 場 新堀ライブ館
3階楽友ホール
視聴者数 932人

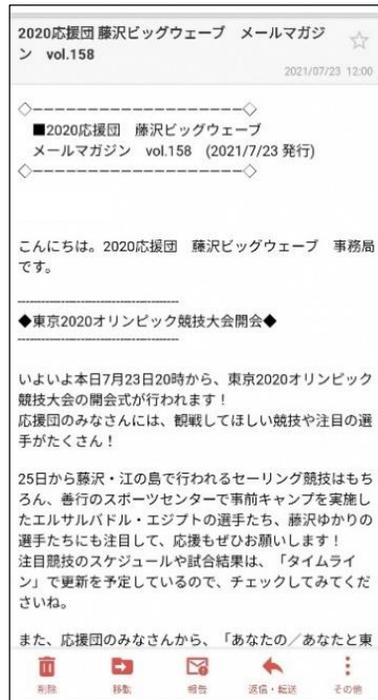


⑤ 情報発信

2018年4月1日のビッグウェーブ設立以降、団員の皆様に対し、大会関連情報やイベントのお知らせなど、SNS（LINE）・メールマガジン合わせて400回を超える情報発信を行ってきました。インターネットの利用環境がない方に対しては、紙面による広報として「^{かわら}瓦版」を年に4回程度発行し、幅広く情報をお届けできるよう取り組みました。



LINE



メールマガジン



紙面での情報発信

(2) シティキャストフジサワ（藤沢市都市ボランティア）

シティキャストフジサワ（藤沢市都市ボランティア）は、セーリング競技の開催会場が江の島に決定したことを受け、市民の皆様が直接的に大会に参加することができる貴重な機会として、政策的に取組を進めてきました。

シティキャストの取組は、2017年6月に「大会関連ボランティア等推進計画」を策定し、この中で、推進ビジョンに「みんなでつなごう！東京2020ボランティア 次世代へ、その先の未来へ」を位置づけ、また、2018年3月には、「藤沢市大会関連ボランティア等実施計画」を定め、これらの計画に基づき、具体的な実施に向けた取組を進めてきました。

① 計画の策定

大会を契機としたボランティアに関する取組を効果的に進め、大会後も見据えたボランティア活動の活性化を図っていくことを目的として、2017年6月に「藤沢市大会関連ボランティア等推進計画」を策定し、過去大会におけるボランティア等の状況、各種調査に基づくボランティアの現状分析などから、4つの戦略方針と重点プロジェクトを定めました。

また、「藤沢市大会関連ボランティア等推進計画」で定めた戦略方針・重点プロジェクトを具体的に進めていくため、2018年3月に「藤沢市大会関連ボランティア等実施計画」を策定し、募集及び活動人数等の試算や、本市独自のボランティア事業の展開、実施に向けたロードマップなどについて定めました。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた「藤沢市大会関連ボランティア等推進計画」

2017年（平成29年）6月
藤沢市
未来につなぐ東京オリンピック・パラリンピック藤沢市支援委員会

東京2020大会開催の「場」を最大限に利用し、市民全員参加によってボランティア活動の定着を図り推進を図ります。

- 東京2020大会の成功に向けて若年ボランティアを中心に募集・研修・啓蒙を効果的に実施し、セーリングの拠点としてスポーツ大衆を交流するボランティア活動、推進させます。
- 都市ボランティアだけでなく、本市独自の多様なボランティア活動の推進により、2020年以降につなげるボランティア活動の視野を広げ、市民参加や関係機関との連携・連携を促していきます。
- 2020年以降を見据えて全てのボランティア活動を分野横断的に連携させる「チーム藤沢」の仕組みを構築します。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた「藤沢市大会関連ボランティア等実施計画」
Ver. 1.0

2018年（平成30年）3月
藤沢市
未来につなぐ東京オリンピック・パラリンピック藤沢市支援委員会

(3) 区域別活動計画
ア 市内・圏外ボランティア
(ア) 配属計画
市内・圏外ボランティアの配属場所は次の表のとおりとする。

市内・圏外ボランティア配属場所一覧	区	配属場所
区外拠点	T01	外周1号線（小田急線駅）
	T02	江ノ島駅（江ノ島線駅）
	T03	藤沢駅（東横線・湘南東武線）
	T04	藤沢駅（JR東日本・小田急線・江ノ島線駅）
会場周辺	P01	藤沢競艇場（湘南地区）
	P02	藤沢競艇センター周辺
	P03	藤沢競艇センター周辺
アクティビティ	P04	江の島競艇場（江の島線）
	P05	江の島競艇場（江の島線）

市内・圏外ボランティア配属マップ

② 募集開始前の盛り上げイベント

シティキャストフジサワ（藤沢市都市ボランティア）の募集開始に向けて、市民の皆様に参加意欲を高めていただくことを目的とした各種イベントを実施しました。2017年3月の「ボランティアシンポジウム」を皮切りに、過去大会の関係者を招いた「ボランティアフォーラム」や、ボランティアの価値・楽しさを感じていただく「ボランティア講座」「ボランティアワークショップ」など、2019年3月までの間に様々なプログラムのイベントを実施し、募集開始に向けた盛り上げを図りました。



ボランティアシンポジウム（2017年3月）



ボランティアフォーラム（2018年1月、2018年9月）



ボランティア講座（2018年1月、2018年9月）

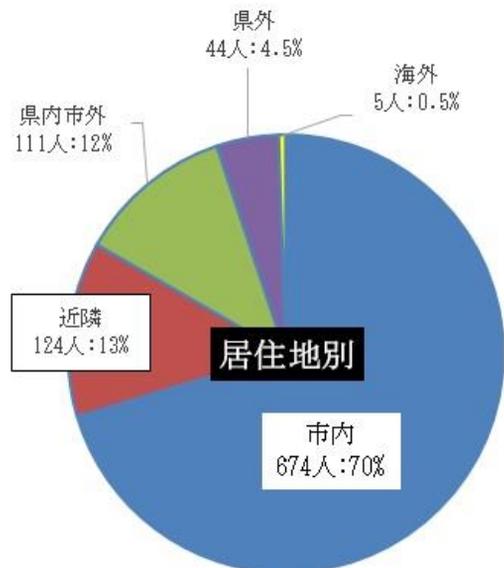
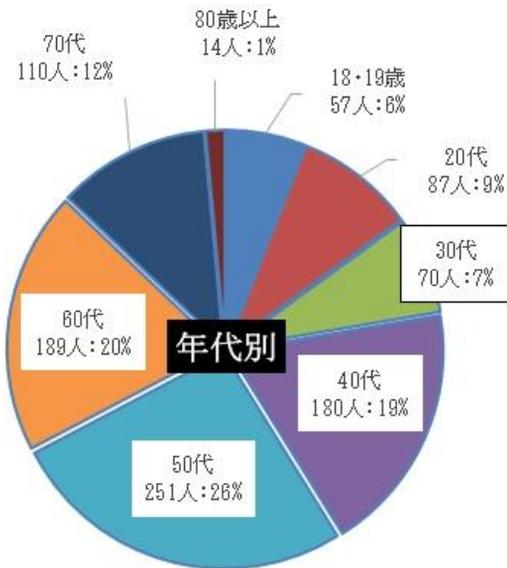


ボランティアワークショップ（2017年11月、2019年3月）

③ シティキャストフジサワの登録者の概要

登録者数：958人（リーダー158人 メンバー800人）

※辞退等により最終的な人数は、797人



シティキャストフジサワの年代別・居住地別の割合（登録時点のデータ）

④ 募集から活動までの流れ

(a) 募集結果

2018年9月26日（水）～12月7日（金）の日程で「藤沢市・都市ボランティア」1次募集としてリーダー候補100人を募集したところ、565人と多くの方にご応募をいただき、2019年1月から2月にかけて面談・選考を行いました。また、外国語観光ボランティアガイドとして、江の島を中心にご活躍されている58人が、リーダーとして新たに加わり、合計158人の方にリーダー候補として活動いただくことになりました。

さらに、2019年4月10日（水）～7月5日（金）の日程で2次募集としてメンバー定員800人程度を募集したところ、2,506人と定員の3倍を超える多くの皆様からご応募をいただきました。1次募集のリーダー候補158人と合わせて、合計958人が都市ボランティアとして活動いただくこととなりました。



区分	募集期間	募集人数	応募者数
リーダー候補	2018年9月26日(水)～12月7日(金)	100人	565人
メンバー	2019年4月10日(水)～7月5日(金)	800人程度	2,506人

(b) 主な活動実績

1次募集終了後にリーダー候補を対象に実施した「リーダー研修」を始め、活動に必要な基礎的知識を学ぶ「共通研修」、6種類の分野から選択して受講する「選択研修」、セーリングワールドカップシリーズ江の島大会において実際に案内・誘導を行う「実地研修」など、様々な研修の実施を通じて、活動に向けた準備を着実に進めてきました。

大会の1年延期決定後は、活動を再始動するためのリスタートイベントのほか、「選択研修」、「救急救命講習」、「新型コロナウイルス対策講習」など、オンラインを積極的に活用して各種研修に取り組んできました。研修の結びとして、具体的な役割や活動内容を確認する「役割別研修」を実施するとともに、ユニフォーム（ポロシャツ・ジャケット・パンツ・シューズ・ソックス・ハット・バッグ）等の配付を行い、万全な体制で活動ができるよう準備を進めました。

無観客での開催が決定し、メインとなる街頭での案内活動は中止となりましたが、代替として、競技会場の江の島ヨットハーバー入口における各国セーリング競技選手関係者のお出迎えや、SNSを活用した動画配信などの活動を実施しました。

年	時 期	活 動 内 容
2019	3月～5月	リーダー研修
	8月～9月	キックオフフォーラム セーリングワールドカップシリーズでの実地研修
	10月～11月	選択研修（観光・英語・リスクマネジメントなど）
	11月～12月	共通研修（集合研修+ eラーニング）
2020	1月～2月	任意研修（国際交流研修、津波避難訓練など）
	11月	リスタートWEBパーティー（オンラインイベント）
2021	1月	選択研修（スポーツ・まちづくり・地域ボランティアなど）
	3月	救命救急講習（オンライン） 新型コロナウイルス対策講習（オンライン）
	6月	役割別研修（リーダー、案内誘導、救護・本部サポートなど） ユニフォーム配付



ブースでの案内ボランティア
(セーリングワールドカップシリーズ2018)



リーダー研修



ユニバーサル解放デー
新江ノ島水族館



キックオフフォーラム



実地研修
(セーリングワールドカップシリーズ2019)



共通研修



選択研修



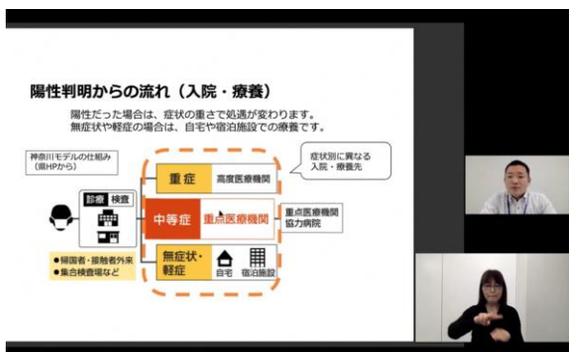
リスタートWEBパーティー



選択研修 (オンライン)



救急救命講習 (オンライン)



新型コロナウイルス対策研修
(オンライン)



役割別研修



ユニフォームを着用したシティキャストによるおもてなし

(3) 本市独自企画のボランティア活動

本市では、市民参加型の大会を具現化するための柱の一つとして、市独自企画のボランティア活動を設ける予定で取組を進め、参加者を募りました。この取組につきましては、聖火リレーなど3つの事業のほか、中学生・高校生を対象としたボランティア体験を行う予定で準備を進め、すべての事業へ多くの皆様からご応募いただきましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、事業自体を中止・縮小するとともに、感染拡大防止の観点からすべてのボランティア活動を中止といたしました。

活動予定イベント	募集人数	応募者数	中止の主な理由
聖火リレー	300人	396人	聖火リレー公道走行中止のため
事前キャンプ	100人	130人	ボランティア及び選手関係者双方の感染リスク回避のため
ライブサイト	200人	248人	ライブサイト中止のため
中学生・高校生 シティキャスト体験	200人	456人	中高生及び選手関係者双方の感染リスク回避のため

3 健康増進に関する取組

本市においては、「健康寿命日本一」を目標に掲げており、人生100年時代に誰もが気軽に楽しく健康づくりに取組めるよう、東京2020大会の開催を契機とした、運動習慣のきっかけづくりや、体づくりに関する啓発事業に取組みました。

(1) 私の夢カレンダー

東京2020大会に向けて、市民の皆様が夢や目標を立てることにより、モチベーションを高めて大会までの日々を過ごしていただくことを目的に作成しました。各自の夢や目標を設定し、それに向けた毎日の「あゆみ」を記入していただき、市民一人ひとりの取組をレガシーとしていただくきっかけづくりを行いました。

作成部数 2017年度：6,500部

2019年度：50,000部を増刷

※2019年度は、健康増進の取組「ふじさわ夢チャレンジ2020」と連携し、同応募用紙を組み込んで50,000部を配布



(2) ふじさわ夢チャレンジ2020〔健康増進課（現 健康づくり課）〕

東京2020大会を契機に、市民一人ひとりが楽しく気軽に、健康づくりに取り組むきっかけづくりとして、インセンティブを示したポイント付与型キャンペーンとして「ふじさわ夢チャレンジ2020」を実施しました。

期 間 2019年7月末～2020年3月31日（火）

応募総数 905件



(3) スポーツ栄養講座（スポーツ推進課）

スポーツに励んでいるジュニア世代・指導者・保護者の方を対象に、公認スポーツ栄養士による「スポーツ栄養講座」をNPO法人湘南栄養指導センターとの協働により開催しました。正しい栄養知識とスキルを習得し、食生活を改善することで、子どもたちの健全育成、競技力向上等を目指して実施しました。

4 文化・教育に関する取組

(1) 文化に関する取組

大会開催を契機に、本市の文化芸術・郷土歴史を国内外に発信していくことを目的として、2018年3月に本市独自の文化プログラムを策定し、本市が誇る文化事業の取組を進めてきました。新型コロナウイルスの感染拡大により、計画していた事業が予定どおり実施できないなかでしたが、セーリングワールドカップシリーズ江の島大会における選手関係者に向けた日本文化の体験イベントなどを通じて、文化都市ふじさわの魅力国内外に広く情報発信しました。



藤沢市文化団体連合会による文化体験おもてなし



藤沢マイスターによるおもてなしブース



藤沢市技能職団体連絡協議会による文化体験ブース



湘南台アートスクエアプロジェクト



まちの彫刻
ピカピカプロジェクト



文化分野の参画プログラム認証事業

(2) 教育に関する取組

2017年12月に本市が独自に策定した教育プログラムに基づき、オリンピック・パラリンピアンを招いての講演会や、海外セーリング選手との交流などを通じて、努力することや達成することの喜びを学ぶとともに、障がいがある人への理解や、諸外国の文化を学ぶなど、教育全般に関する様々な取組を進めました。

① フラワーレーンプロジェクト

選手関係者へのおもてなしの取組として、競技会場内にアサガオを配置するフラワーレーンプロジェクトを実施しました。実施に当たっては、アサガオの種まきから生育、応援メッセージの寄せ書きなどを市内の市立小学校の児童が携わりました。

同プロジェクトのテストとして、2019年8月17日（土）～22日（木）の日程で行われたREADY STEADY TOKYO - セーリング〔オリンピックテストイベント〕において、村岡小・八松小・高砂小の3校が協力して同プロジェクトに取り組みました。3校で生育された450鉢のアサガオは、児童からのメッセージとともに、テストイベント会場に配置されました。

同年6月17日（月）に村岡小で行われた種まきイベントには、東京2020マスコットの「ミライトワ」と「ソメイティ」が駆けつけ、児童の皆様と一緒に種まきを行い、この時の模様は、IOCのホームページから広く国内外に発信されました。また、同年8月19日（月）に行われた「ベニューツアー及びフラワーレーン設置体験」に、同プロジェクトに取り組んだ3校から希望者約50人が招待され、テストイベント会場内の見学とアサガオの設置体験を行いました。本プロジェクトは、セーリングとビーチバレーの2つの競技会場のみで開催され、児童たちにとって貴重な体験となりました。

なお、本大会時には、辻堂小・富士見台小・大鋸小の児童に同プロジェクトにご協力いただき、セーリング選手関係者を360鉢の満開のアサガオがお出迎えしました。



村岡小学校での
種まきイベントの様子

ベニューツアーの様子



② 海外セーリングチームと児童・生徒の交流

【アメリカセーリングチーム と 天神小学校の児童】



選手と児童との交流



J A さがみのご協力による藤沢産農産物のふるまい

【オーストリアセーリングチーム と 村岡中学校の生徒】



選手と生徒が踊りで交流

選手は民族衣装を身に着けて参加



吹奏楽部の生徒から歓迎の演奏

選手と生徒と一緒に記念撮影

【ノルウェーセーリングチームと長後小学校の児童】



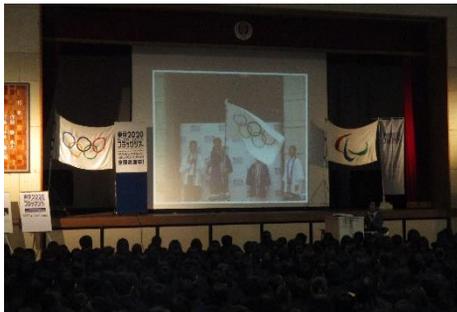
児童からの応援メッセージ・イラストをコンテナに貼り付けるため、シート状にしてプレゼント

③ 東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー

大会気運醸成のため、オリンピック・パラリンピックフラッグが全国を巡回するフラッグツアーを実施し、市内の一部の小・中・特別支援学校で展示を行いました。



フラッグツアー小学校訪問 俣野小学校



湘洋中学校（写真）及び高浜中学校



白浜養護学校

④ セーリングワールドカップシリーズ江の島大会2018の観戦

片瀬小学校3年生の児童が、帆船やまゆりに乗船し、セーリングワールドカップシリーズを観戦しました。



⑤ あすチャレ! School

日本財団パラリンピックサポートセンターが、パラアスリートからの講話とパラスポーツ体験を通じて、多様性の大切さなどについての気づきと学びの機会を提供するプログラムを市立小学校・中学校で実施しました。



2017年 片瀬小学校で車いすバスケットボールを実施
講師 根木 慎志 選手 (2000年シドニー大会出場)



2019年 大鋸小 (写真左)、高浜中 (写真右)、新林小、浜見小の各校でゴールボールを実施
講師 高田 朋枝 選手 (2008年北京大会7位入賞)

2019年は、上記学校に加え、羽鳥中学校でも2004年アテネパラリンピックで銅メダルを獲得した、永尾嘉章選手を講師に迎え、車いす陸上を実施しました。

⑥ パラリレーレース

東京2020大会パートナーである凸版印刷株式会社、一般社団法人日本パラ陸上競技連盟等と本市が連携し、大庭中学校の生徒が、2012年ロンドンパラリンピックに出場した花岡伸和選手から、パラリレーレースの実技指導を受けました。指導の成果は後日行われた体育祭で披露されました。



花岡 伸和 選手のパラリレー授業
(2012年ロンドン大会 陸上競技5位入賞)



体育祭パラリレーレース

⑦ 学校給食

東京2020大会の気運醸成及び、食の重要性を伝えることを目的に、藤沢市ゆかりの5人のオリンピック・アスリートにアンケートを実施し、「思い出の給食」をもとにアレンジした献立を、市立小学校の児童に提供しました。セーリング競技のオリンピックである牧野幸雄選手からは、ボイスメッセージをいただき、給食時間中に校内放送し、アスリートとして食事に気を付けていることや、食に対する思いなどを児童に伝えていただきました。

また、県立スポーツセンターで事前キャンプを実施した3か国にちなんだ給食も提供し、給食を通じて国と食文化などの多様性に関する理解促進に取り組みました。

【藤沢市ゆかりのオリンピック・アスリートの思い出の給食】



ソフトめんミートソース
吉田 愛 選手
セーリング女子470級



ビビンバ
吉岡 美帆 選手



すきやきに
牧野 幸雄 選手
セーリング49er級



あげばん
宮川 麻都 選手
サッカー女子



ソフトめんごもくあんかけ
小川 希花 選手
スケートボード



各国の食文化等を紹介した
手作り壁新聞を掲示

【事前キャンプ実施3か国にちなんだ給食】



【エジプト】

- ・コシャリ (豆とマカロニ入りトマトソースかけごはん)
- ・モロヘイヤとたまごのスープ



【エルサルバドル】

- ・ポジョフリート (フライドチキン)
- ・フリホーレス (いんげん豆の塩ゆで)



【ポルトガル】

- ・豚肉とあさりのアレンテージョ (アレンテージョ地方の郷土料理)

5 産業・観光振興に関する取組

東京2020大会を契機として、更なる産業振興と裾野の広い観光誘客を一層推進するため、開催会場自治体として、江の島に来られる多くの方々を想定し、江の島島内の常設公衆トイレの新設や、多言語の観光案内サインを整備するほか、ホテルの誘致施策を実施するなど、おもてなしの視点で受け入れ環境の整備をすすめました。

(1) 観光施設の整備（観光課）

観光案内板について、新たに英語など多言語で表記したサイン板を江の島島内や藤沢市片瀬江の島観光案内所前等、ラストマイルを中心とした周辺エリアに設置しました。また、観光客の利便性の向上を図るため、江島神社中津宮前にトイレを新設しました。



江島神社中津宮前に新設したトイレ

(2) ホテル誘致施策の実施（産業労働課）

「藤沢市企業立地等の促進のための支援措置に関する条例」を改正してホテル誘致を行い、客室数などの要件を満たした2件のホテルに対して税制優遇の決定をしました。

6 環境に関する取組

東京2020大会の持続可能性コンセプト「Be better, together より良い未来へ、ともに進もう。」のもとに開催される大会を契機として、環境負荷の軽減、循環型社会の推進を図るとともに、様々な方が快適に活動できるよう、周辺トイレの整備、禁煙対策及び環境美化イベントによる意識啓発など、ハード・ソフト両面で取組を進めました。

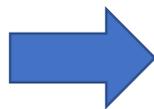
(1) 周辺トイレの整備（環境総務課）

東京2020大会セーリング競技開催期間中、誰もが安全に安心して利用できる公衆トイレにするため、公衆便所の便器の洋式化及びバリアフリー化、スロープ等の整備を行いました。



(2) ラストマイル上の禁煙対策（環境総務課）

東京2020大会セーリング競技の開催期間中、江の島周辺の3駅から競技会場に向かう動線（ラストマイル）上となる江の島弁天橋手前の喫煙スペースを閉鎖し、通行者が快適に往来できるよう、対応を図りました。



(3) 環境美化啓発イベント

東京2020大会の開催を契機とした、SDGs、持続可能性等をテーマとした環境美化啓発イベントを神奈川県や環境団体等と連携し実施しました。



片瀬東浜でのスポGOMI



市役所本庁舎1階プロムナードでの
アートごみ展示

(4) 環境美化キャンペーン・啓発イベント

一般消費財メーカーのご協力により、「江の島の海とセーリング」をテーマとしたイラストを市内の中学生～大学生を対象として募集し、採用されたものをボディソープのパッケージに使用。売上の一部を、イラスト採用者の所属する学校と協力メーカーで行うビーチクリーンの実施費用に充てました。



(5) アート展示による環境啓発

持続可能性や環境教育、地球規模の市民参加などをテーマに活動を行う市内の一般社団法人の企画で、在日カナダ大使館からご協力をいただき、海洋プラスチックごみなどを使用した国内外のアーティストによる作品を市役所本庁舎1階に展示し、啓発を図りました。



7 共生社会の推進に関する取組

多様性と調和をビジョンの一つに掲げる東京2020大会の開催を契機として、オリンピズムの目的である人間の尊厳保持と平和な社会を目指し、人権尊重の理念の普及啓発を図るとともに、多文化共生や国際交流等の取組を進めました。

(1) 庁内各課等における取組

庁内各課等において参画プログラムを活用した共生社会の推進に関する講座・イベントや、東京2020大会の立体エンブレムの作成など様々な取組を行いました。

平成29年度 善行公民館 人権講座
教育プログラム
「パラリンピアンから学ぶ」
～勇気をもって自分らしく～
講師 秋元 妙美氏
（ロンドン・パラリンピック
競技大会ポッチャ日本代表
（五輪選手））
8/19
時間：午後1時30分から3時30分まで（開講：午後1時）
場所：善行公民館 体育室兼ホール
対象：市民一般（中学生以上） 70名（先着順）
参加費：無料
持ち物：飲料、タオル、室内用運動シューズ
申込み：7月19日（水）から善行公民館へ
※希望申込みは8月10日（水）まで
電話、FAXまたは来館で

人権講座
（善行公民館）

2市1町（藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町）広域連携事業
第33回 藤沢市人権啓発講演会
出会いこそ生きる力
日時：2018年12月15日（土）
午後1時30分～3時30分
会場：藤沢市民会館 小ホール
定員：400名
第1部：中学生人権作文コンテスト
入賞作品の朗読
第2部：講演会
サヘル・ローズ氏
（女優・タレント）
申し込み・問い合わせ：0466-25-1111（内線2132）
TEL 0466-25-1111（内線2132）
FAX 0466-24-5928
E-mail: fujisakandanjyo@city.fujisawa.lg.jp

藤沢市人権啓発講演会
（人権男女共同平和国際課）



立体エンブレム
（点字図書館）

(2) 姉妹友好都市との交流（人権男女共同平和国際課）

姉妹友好都市との親善交流を深めるため、湘南藤沢市民マラソンに国内外の姉妹友好都市を招待し、レースへの参加を通してスポーツ交流や市民交流を図り、友好の輪を広げました。



オープニングセレモニー



参加者同士の交流

2018年時の様子

(3) 姉妹友好都市からのメッセージ動画（人権男女共同平和国際課）

東京2020大会セーリング競技に姉妹友好都市の皆様を招待し、観戦をしていただく取組を実施予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により実施ができなくなったことから、これに代わる親善交流の取組として、国内外の姉妹友好都市の首長や市民の皆様から、大会開催及び選手への応援メッセージ動画をお送りいただきました。

動画は、市役所で実施予定であったライブサイトで放映する目的で制作されたものでしたが、ライブサイトが新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となったため、本庁舎記念撮影用モニター及び市ホームページで放映しました。



本庁舎記念撮影用モニターでの放映



姉妹友好都市からの大会開催及び選手への応援メッセージ動画

8 救急・医療体制に関する取組

東京2020大会を契機として、救急・医療体制について、関係機関・団体との連携強化に努め、神奈川県を始めとする県内自治体等と連携するなど、安全安心の大会実現に当たり万全の対応を図りました。

消防局では、救急隊員が外国人傷病者に対して適切なコミュニケーションを図ることができるよう、多言語音声翻訳アプリ「救急ボイストラ」を全救急隊に配備するなど、救急体制の充実を図りました。

また、市民病院では、大会期間中、医療通訳やコーディネーターを配置するとともに、救命救急センター等の案内サインを英語併記とするなど、外国人患者を受け入れるための整備を行いました。



「救急ボイストラ」の画面イメージ



「救急ボイストラ」を活用した救急活動訓練

9 安全・安心に関する取組

東京2020大会を契機として、防災、テロ対策等について、神奈川県等の関係機関や地元各団体との連携協力を図りながら、不測の事態に備えるべく諸対策を推進し、安全安心の大会運営の実現に当たり必要な対策を講じました。

(1) 各種訓練の実施（危機管理課・警防課）

東京2020大会セーリング競技開催に伴い、江の島周辺での津波災害やテロ災害の発生に備え、関係機関と連携し各種訓練を実施しました。



江の島島内での
津波を想定した避難訓練



新江ノ島水族館での
テロを想定した訓練



小田急電鉄片瀬江ノ島駅での
テロを想定した訓練

(2) 各種災害対応資機材の整備（警防課）

東京2020大会におけるテロ等の特殊災害への対策を強化するため、各種災害対応資機材の整備等を行いました。



10 周辺環境整備に関する取組

東京2020大会の開催を契機として、バリアフリー化等の都市基盤整備と、大会終了後を見据えた周辺環境施設等について、整備を進めました。

(1) 競技会場周辺の整備

セーリング競技会場の最寄り駅である片瀬江ノ島駅前の交通空間（ロータリー）や駐輪場の整備のほか、鵜沼海岸10号踏切の改良、湘南モノレール湘南江の島駅のエレベーター設置に対する補助、観客動線となる弁天橋の改修など、競技会場周辺における利便性や安全性の向上を図りました。



片瀬江ノ島駅前のロータリー・駐輪場の整備（道路河川総務課・道路整備課）



鵜沼海岸10号踏切の改良
（道路整備課）



弁天橋の改修（道路維持課）



湘南モノレール湘南江の島駅
エレベーター設置への補助（都市計画課）

(2) 県立スポーツセンター西側階段付近へエレベーター設置（道路整備課）

事前キャンプの実施を見据え、拠点施設である県立スポーツセンター西側階段付近にエレベーターを新設し、バリアフリー化の推進を図りました。



県立スポーツセンター西側階段付近に
エレベーターを設置

(3) 藤沢駅周辺の整備（藤沢駅周辺地区整備担当）

東京2020大会の開催を見据え、藤沢駅北口ペDESTリアンデッキや交通広場等の再整備を行い、藤沢都心部の活性化に向けた取組を促進しました。また、藤沢駅北口排気塔を、大会開催や藤沢市スポーツ都市宣言を契機として、2022年1月、セーリングデザインにリニューアルしました。



藤沢駅北口ペDESTリアンデッキ（サンパール広場）



藤沢駅北口排気塔